

現況分析における顕著な変化についての説明書 (教育 / 研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 歯学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 「教育内容」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 「教育課程の編成」

本学部の教育課程においては、本学部の教育目的を実現するために高い倫理観、豊かな人間性、高い国際性を醸成することを目的として、全学教育科目を、低学年を中心として実施しているが、高度な専門知識と臨床能力の育成のためには、早期に専門教育を開始し、診療参加型の臨床実習を実施する必要もある。そのための方策として

1. 試験合格記録／ポートフォリオを導入、
2. 進級判定の厳格化を行うとともに、
3. 学生自身による自己評価の自律的フィードバックが可能となるようにした。また、これまでの教育課程に加えて、下記、①～⑥のような教育方略を導入した。具体的には、平成 20 年度より新カリキュラムを導入し、臨床実習の開始時期を 5 年次前期からとし、これまでより 6 か月早期化することとした (資料 1-A)。

資料 1-A. 新旧カリキュラム対照表

	旧カリキュラム	新カリキュラム
1年生	全学教育 歯学総論・歯科英語 アーリーエクスポージャー	全学教育 歯学総論・歯学生物学 アーリーエクスポージャー(臨床)
2年生	全学教育 基礎科目(解剖学・組織学など)	全学教育 基礎科目(解剖学・組織学・生化学など)
3年生	基礎科目(生化学、薬理学など) 基礎科目(生体材料学、微生物学など) リサーチエクスポージャー	基礎科目(生体材料学、微生物学など) アーリーエクスポージャー(大学院連携)
4年生	臨床科目(口腔発達学など) 大学院連携講義	臨床科目(保存学・口腔発達学など) 臨床科目(補綴学・口腔科学など) 大学院連携講義
5年生	臨床科目(補綴学、保存学など) 臨床予備実習 臨床実習(見学型)	臨床予備実習(シミュレーション実習) 臨床実習(診療参加型)
6年生	臨床実習(見学型) 総合歯科学	臨床実習(診療参加型) 総合歯科学

歯科英語／英会話

新カリキュラム (平成 20 年度導入) における知識、技術、および態度教育の充実を図るための方策

1. ポートフォリオ：平成 20 年度から 2 年間実施中、対象学生 124 名 (新カリキュラムの 2 学年分)
2. 進級判定の厳格化：学年制の適用により 1 単位でも未修得の場合、留年。
3. 学生自身による自己評価の自律的フィードバック：試験合格記録による。平成 20 年度から 2 年間実施中、対象学生 124 名 (新カリキュラムの 2 学年分)

専門教育の早期化のための具体的方略とその実績

- ①英語教育への e-learning：WebCT を用いた英語教育リソースの利用 (Netacademy 2 など)
- ②英語教育への native speaker 教員：グローバル 30 教員を 1 名採用
担当科目：Introduction to dental basic sciences、歯学総論 (歯科英語)
- ③ 6 年一貫英語教育：歯科英語・英会話 (歯学総論として各学年 15～30 コマ)。
- ④ 1 年次アーリーエクスポージャー：体験実習 (外来見学、印象採得実習など) (9 コマ)
- ⑤ 3 年次アーリーエクスポージャー：研究室配属による研究実習、大学院生による講義 (3 コマ)
- ⑥シミュレーション実習：診療参加型臨床実習への導入実習 (8 週間程度計画)。